

楢葉遠隔技術開発センターを中核とする 浜通り都市圏ネットワーク構築について

2016年1月27日
JAEA福島研究開発部門成果報告会



いわき商工会議所 副会頭 正木好男



いわき商工会議所 地域振興ビジョン2014 《2020年を見据えて》

～テーマ～

福島県浜通り都市圏の復興を支える産業・生活拠点都市

～基本理念～

- ① 厳しい現状を乗り越える決意のもとにマイナスをプラスに変える知恵を結集する。
- ② 浜通り拠点都市として都市圏全体の復興を支える役割を發揮する。
- ③ 福島第一原発完全収束と安心・安全環境を確立する。
- ④ 人口減少下における地域経済力の維持・向上を図る。

**イノベーションコースト構想に関しては、
“ゲートウェイ的な役割”を發揮**

～理想の姿を実現するため、34のアクションプログラムを推進～

※ 主なアクションプログラム ※

- 廃炉技術安全研究所・人材育成拠点の整備
- 地元企業による廃炉・ロボット産業の振興
- 廃炉事業と地元ものづくり企業群とのマッチング
 - ⇒ JAEAの誘致、連携協定締結
 - ⇒ いわきものづくり塾「廃炉コース」開催
 - ⇒ 文科省「トビタテ！留学JAPAN」留学生派遣事業 実施
(福島浜通りグローバル人材育成事業推進協議会 設立、
JAEA関連研究所〔スウェーデン〕等へ学生を派遣)





檜葉遠隔技術開発センターへの期待

～幅広く親しみやすい教育・人材育成・研究の拠点～

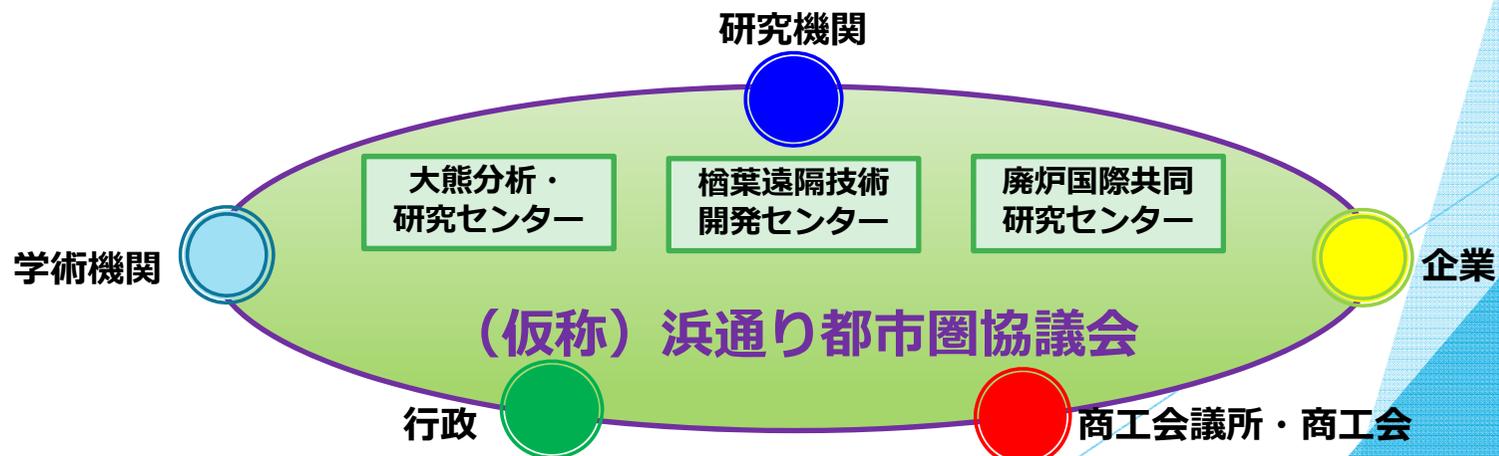
- 地元教育機関との連携による親しみやすい教育・人材育成の拠点となる。
- 遠隔技術や廃炉分野だけでなく、幅広い分野の研究者・技術者に開かれた研究の拠点とする。

～センター利用による技術情報の集約、廃炉技術等の開発～

- 様々な技術を有する企業がセンターを利用することで技術情報が集約し、組み合わせることで、廃炉に実用できるロボット技術等の開発を進める。
- 遠隔技術開発やセンターの管理運営に必要な部材、資材、加工等を供給できる地元企業のデータベース化とネットワーク化を図る。

～廃炉、新技術・新産業の創出に向けた、浜通り都市圏ネットワークの構築～

- 檜葉遠隔技術開発センター、大熊分析・研究センター、廃炉国際共同研究センターを中核とする新たな研究・産業拠点の整備に向け、研究機関、学術機関、企業、行政、商工会議所・商工会等で構成する協議会を設立する。



ご清聴ありがとうございました。

